ISSN 0917-7604
http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/

東光原

熊本大学附属図書館報

Kumamoto University Library Bulletin, No.33, Jul. 2002

● 宮本武蔵の待遇

● 外国におけるハーン研究
ハーンとアイルランドの作家たち

● 熊本大学で利用できる電子ジャーナル

● 米国の図書館サービス事情
－インターネットを使ったQ&Aサービス－

● 平成１４年度事業計画
● 平成１３年度図書館統計
● 図書館ガイダンスを実施

（永青文庫熊本大学附属図書館寄託）
「奉書　寛永十七年六月十八日より同十八年三月迄」
藩政中枢の奉行が藩主の命令を書き留めた

宮本武蔵の待遇

吉　村　豊　雄

宮本武蔵の人物像は、吉川英治氏の小説の影響もあり、ある種のイメージができ上がっているが、彼の六二年の生涯は謎にみちている。極論すれば五七歳で肥後熊本にあらわれるまで、彼の行跡は空白に近い。

その武蔵は、肥後熊本藩主細川忠利から寛永十七年（１６４０年）八月十二日付で七人扶持・合力米一八石を給されている（写真1）。ついで忠利は同年十二月五日付で米三〇〇石を与えている（写真2）。現米三〇〇石は、知行（土地）表示すれば知行高（撫高）七五〇石に相当する。上級家臣に近い待遇である。

従来、２度にわたる米支給は、１度目が武蔵を遇するには余りに小額であったため、改めて応分の米を支給し武蔵を丁重に待遇したというような受取り方をされている。つまり、武蔵の伝記『二天記』が記すように、武蔵は細川家に「客分」として招かれたと解する方向で二度にわたる米支給を解釈しているが、実情は違うし、そう単純ではない。そもそも二回の米支給は性格を異にする。

写真1は、藩政中枢の奉行が藩主の命令を書き留めた『奉書』寛永十七年八月十三日条である。写真の右半分は武蔵に対し七人扶持・合力米一八石を給する旨を記した、いわば武蔵に対する辞令であり、原文書では写真2のように、藩主忠利の印判（御印）がされていたはずである。写真1の原文書が失われ、写し（写真1）のみが存在するところに、武蔵処遇の複雑な事情をうかがい得る。写真1の『奉書』によると、武蔵の給分に関する藩主辞令は、首席家老松井興長が藩主側近の財務担当阿部主殿を介して申請し、発給されているが、発給に際して忠利は、松井興長に対し「この御印（辞令）を武蔵に見せるな、扶持方・合力米の支給方式だけをよく納得させよ」と命じている。松井は藩主の意向を武蔵に伝えている。藩

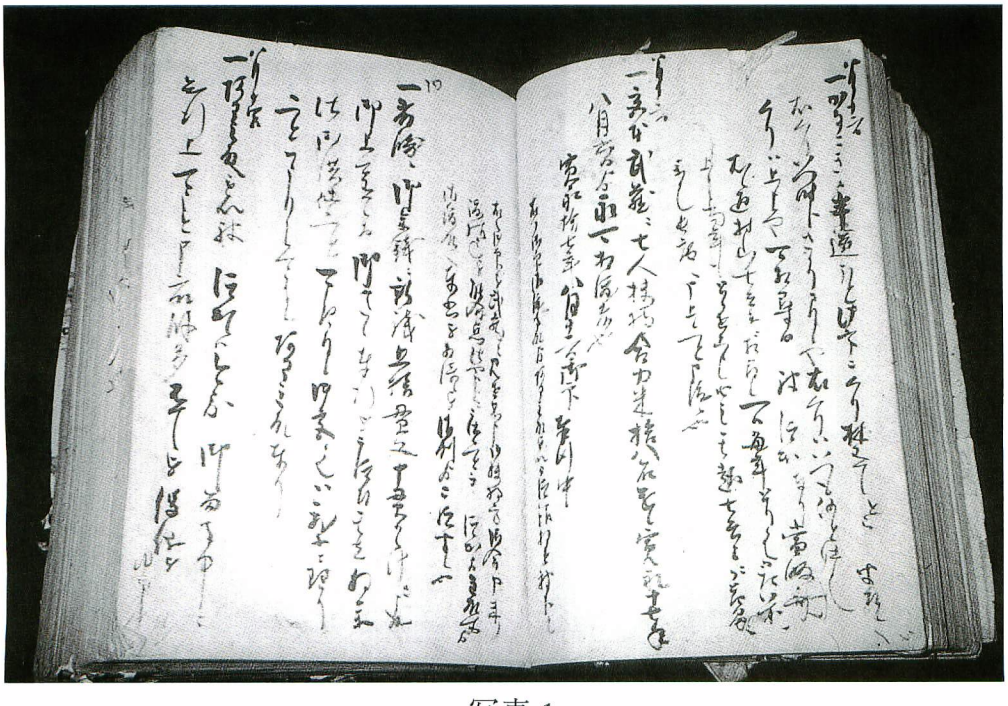


写真１

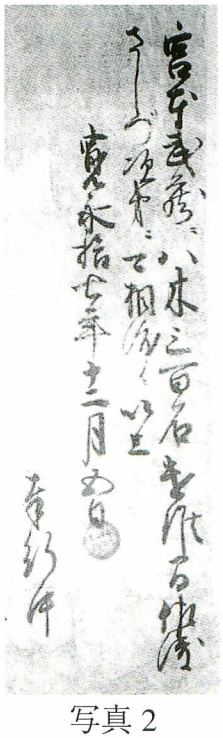


写真２

主の「御印」が捺された扶持方・合力米の支給はその者の召抱えに通じる。「御印を武蔵に見せるな」とは、扶持方・合力米を支給しても家臣としての召抱えでないことを通告したものである。

実は武蔵は、前年（寛永十六年）の八月に突如松井氏の家司（家老）竹田氏に松井興長宛の書状を示し、興長への拝謁を打診している（八代市立博物館蔵竹田家文書）。「少し用がありましたのでやって参りました。熊本に逗留することになりましたら、あなた様のもとに参上し、用向きを申し上げたいと存じます。」と書いている。武蔵が松井興長に頼もうとした用向きとは何か。それは、仕官とまではいかなくとも、何とか老境の自分を細川家の方で世話してもらえないか、というようなものであったろうと推測される。

武蔵が松井氏に面会のアポイントを求め、藩主忠利から扶持方・合力米を給されるまでに丸一年を要している。細川家が武蔵の処遇に慎重であったのは、武蔵の養子伊織が仕えている小倉小笠原家と武蔵との関係に配慮したこともあろう。同時に、武蔵の知られざる前歴も関係しているように思える。詳細は次回「異説・巌流島」で述べるが、細川家はかっていわゆる巌流島の決闘として知られている私闘事件の一方の当事者である武蔵の罪状を不問に付し、藩外に送り出した経緯がある。その後の武蔵の長き漂泊もこの事件と関係しているように思える。

武蔵も細川家との直接の接触を断っていたと思えるが、何らかの事情で小笠原家に居づらくなったのであろう。先の松井興長宛書状によると、小笠原家を出た武蔵は上方・江戸を廻った後、細川家の家老松井氏のもとを訪れる。そこには細川家に一縷の望みを託した武蔵の姿が想像できる。細川家は老境の武蔵を見捨てなかった。藩主忠利は家臣としての召抱えは厳として拒みつつ、武蔵を七人扶持・合力米一八石と格付けした上で、すぐさま米三〇〇石を追加支給している。先の七人扶持・合力米一八石が細川家における武蔵の仮の身分的位置づけであるとすれば、年末支給の米三〇〇石は剣・書・絵など当代第一級の異能人に対する生活全般の保障といえる。

武蔵は細川家からこれだけの現米支給を受けるような関係にはない。この二度にわたる現米支給は絶大な藩主実権をふるっていた忠利だからこそ可能であった処遇である。藩主忠利がこの後急逝すると、「阿部一族」事件にみるように、忠利取立ての新参家臣は微妙な政治状況のもとに置かれる。武蔵も新藩主のもとで微妙な状態に置かれたであろう。しかし、次の藩主光尚によって武蔵に対する毎年の米三〇〇石支給は継続される。武蔵は細川家の恩義に報いることを強く意識したものと思える。

武蔵晩年の著作とされる『五輪書』は、自分の生涯に対する存在証明の書であり、また自分を世話してくれた細川家に対する恩義の書ともいえる。

（よしむら　とよお　文学部教授）

外国におけるハーン研究

ハーンとアイルランドの作家たち

福　澤　　清

Lafcadio Hearn (1850-1904) の海外での現時点における評価は、どうなっているのであろうか？ 2歳から約10年間、幼・少年期を過ごしたアイルランドでは、数年前、ダブリンの作家記念館に他のアイルランドの作家と並んで彼の記念額(顔写真)が掲げられるようになったが、アイルランド作家に対するような詳細な紹介・説明は無く、日本研究者として簡単に触れてあるだけである。記念額は、元駐日アイルランド大使、あるいは大使館に勤務したことのある人々のご尽力によるものであるが、彼らのハーンへのさらなる関心は、「ハーンおよび彼の作品の中に観察されるアイルランド性」にスポットをあてた論文集あるいは単行本として結実している。[Sean G. Ronan ed. (1997), Irish Writing on Lafcadio Hearn,　Paul Murray (2000), A Fantastic Journey etc.]

また、ギリシャから母親とともに父親の郷里ダブリンに初めて移住して来た時に一時期、居住した親戚の家で、現在 Town House となっている Gardiner Street Lower の家、及び、Liffey 川より南にありハーンが大叔母Sarah Brenane と一緒に住んだことのある旧居のうち２軒は、正面玄関にハーンのプラークが掲げられ顕彰されている。しかし、一般的に、今日でもアイルランドの人々の間でのハーンの知名度はかなり低い。同様の現象であるが、日本(熊本)でも良く知られている『妖精の女王 (Faerie Queene)』の著者、詩人 Edmund Spenser (?1552-1599) についても、この作品の創作されたコークの住民を始めアイルランド人にはほとんど知られていない。

ダブリン大学のトリニテイ・カレッジ（1592年創立）のカレッジ通りバス停からダブリンの南、ダブリン山麓にあるRathfarnham, Whitechurch 行きのバス15C を利用すると毎日ハーンの旧居を垣間見ることになる。この旧居のあるLiffey 川の南の地区は相対的に治安が良く、当時は裕福な人々が居住していた郊外の住宅地であるが、そのうちのひとつ Leinster 地区は今日ダブリン市内でも生活するのに最も便利な評判の良い住宅街のひとつになっている。驚くべきことに、DublinersやUlysses で馴染みのある20世紀最大の小説家といわれるJames Joyce (1882 - 1941) の生家であるRathgar 地区の41 Brighton Square West の家及び生後まもなく移り住んだRathmines地区近くの23 Castlewood Avenue の家、さらには、James Joyceの両親が結婚式を挙げた The Church of Our Lady of Refugee もこのハーンの旧居から歩いてすぐの所にある。James Joyce 一家はこの後、ダブリンの郊外線DARTの南方Bray地区から、アイルランド人の特性のひとつである「怠惰で酒好き」の父親のために 治安の悪いLiffey川より北の住宅を10回近く引っ越して過ごすことになる。

ハーンと手紙を交わしたことのあるノーベル賞作家 William Butler Yeats (1865-1939) とともにアイルランド文芸復興に尽力した劇作家John Millington Synge (1871-1909)もRathfarnham のはずれの 2 Newtown Villas で生まれている。Riders to the Sea, Playboy of the Western World, The Alan Islands などの作品がある。TCD(Trinity College, Dublin) の学生時分からアイルランド語に関心を持ち勉強していたことと、パリで出会った Yeats の薦めがあってアラン島に住み着いて上述の作品を残すことになる。アイルランドの独立を標榜することで一致したためで

ある。他方、Joyce は、Yeats とは行動を別にし、むしろ成熟したヨーロッパ人たらんとする。アイルランド性、アイリッシュ的なものを侮蔑し自ら好んでアイルランドを去りヨーロッパで生活しながらも(Self-Exile)、作品に関する限り、ダブリンに固執する、という極めて屈折した人生を送っている。

ハーンの場合、ジャガイモ飢饉 [The Great Hunger, 1845-1848] の際の多くのアイルランド人同様、自分の意志とは関係の無い大叔母の破産という理由で故国を去らざるを得なかった。結局、以後、二度と故郷の土を踏むことは無かったのである。

ハーンが日本の土を初めて踏んだのは、1890(明治23)年、40歳の時である。この当時、アイルランドはイギリスの植民地下にあり、ロンドンには多くのアイルランド人が住んでいた。著名なアイルランド人を3名挙げると、George Bernard Shaw (1856-1950), William Butler Yeats (1865-1939), Oscar Wilde (1854-1900) である。この3名は顔見知りで、特に先輩格の Wilde は、郷里の後輩二人の面倒をよく見、何かにつけ親切に遇している。Wildeの生家、育った家はTCDのすぐ近くにあり、Shawの生家もさほど遠くはない。後年、同性愛裁判で Wilde が不利な状況にあったとき、Shaw は Wildeに対し、有利な証言をして手助けることのできる立場にある時に積極的に救いの手を差し伸べなかったのは不可解である。幼少年期の地味で母親の愛情に飢えた、フランス語コンプレックスのShawと当時のダブリンの名士を集めてはパーテイに明け暮れる派手な生活、服装も華美でフランス語にも長けていた Wilde との対照的な一面が関係したのであろうか。Shaw は、小説家になろう、と決意して1879年3月から9月まで毎日、単語数1500位の文章修行を己に課している。また社会を改善しようという意図からマルクスの資本論について一生懸命勉強し社会主義者たらん、ともしている。また、英語のスペリングは合理的でないとして、修正案まで考案し一部実践も行っている。発音やスペリング面での英語への関心は、ミュージカルMy Fair Lady (原題 Pygmalion)の花売り娘と言語学者Higgins教授の設定に具現されていると見なせる。TCD近くのダブリンの国立美術館は、子どものいないShawの寄付に負うところ大で、今日、彼のレリーフが同館に飾られている。周知のごとく、Wildeは、牢獄生活を経た晩年、文無しで物乞い同然であったことを考えると人生の容赦無い過酷な運命について思いを馳せざるをえない。

このWilde が人生絶頂の折、アメリカ講演を行っており、ハーンは、ニューオーリンズで新聞記者であったときに、同郷のよしみからか、この講演紹介の記事を2回ほど好意的に掲載している。しかしながら、Levee Literary s of New Orleans (1998) という小冊子によれば、ニューオーリンズの名士、文士であるGeorge Washington Cable (1844-1925) の家をWildeが訪問したとき、Cable の子ども達はWilde の奇抜で派手な服装、長髪にしきりに感心したが、隣人はそれに呆れかえって、後でWilde のことを "fool" であると Cable に話したそうである。ちなみに、1882年6月のNew Orleans のGrand Opera での Wilde の講演は、不評だったとのことである。

ハーンは、R. Welch (2001) The Concise Companion to Irish Literature によれば、オリエンタリスト、哲学者で日本文化、日本人の生活を賛美した、とある。オリエンタリストとあるのは、Some Chinese Ghosts [The Soul of the Great Bell, The Story of Ming-y, The Legend of Tchi-Niu, The Return of Yen-Tchin-King, The Tradition of the Tea-Plant,

The Tale of the Porcelain-God] という中国に関する作品もあるからであろう。哲学者である、というのは、Herbert Spencer や Charles Darwin, Percival Rowell に言及しながら、例えば、Japan: An Attempt at Interpretation などの著作を公刊しているため、と思われる。

アイルランド系アメリカ人（ノーベル賞等）作家

不思議なことに、アイルランドはSamuel Beckett(1906-1989), Shamus Heaney(1939-)というノーベル賞作家、詩人、古くはJonathan Swift(1667-1745) など著名な作家、詩人を輩出している。アイルランド系アメリカ人も含めると以下のような作家が浮上してくる。

William Faulkner (1897-1962)
Mississippi 州生まれであるが、両親は北アイルランドのUlster出身。Falkner 家はDerryに多い名字。最初の詩集を出版したときに、本来のFaulkner というスペリングに戻す。James Joyceと同様、「意識の流れ」を重視。修辞的文体。ノーベル賞，ピュ―リッツア賞。

Eugene O'Neill (1888-1953)
New York 生まれ。両親はKilkenny、Tipperary からの移民。ノーベル賞、ピュ―リッツア賞。

John Ernst Steinbeck（1902-1968）
The Grapes of Wrathなど多数の作品。ノーベル賞

Margaret　Mitchell　(1900－1949)
代表作　Gone With the Wind でピュ―リッツア賞。

F. Scott Fitzgerald (1896-1940)
代表作　The Great Gatsby, Fermanagh からの移民。

Pete Hamill (1935-　)
New York, Brooklyn 生まれ。Belfast からの移民。日本人ジャーナリストFukiko Aoki の夫でもある。

ニューオーリンズにおけるハーン

ケルト系移民の多いニューオーリンズ[Celtic South]でのハーンの成果は、1）2000項目近くの新聞記事（ニュース）2）たくさんの社説 3）哲学、文学、宗教（例えばvoodoo教）音楽、旅行に関する数百の書評 4）フランス文学の翻訳 [Theophile Gautier, Anatole France, Guy de Maupassant, Pierre Loti] 5）詩（集）への傾倒 [The Amateur Musician, The Fatal Plunge] 6）自著の出版 [Stray Leaves from Strange Literatures(1884), Some Chinese Ghosts (1885)] 7）多くの短編集および小説 [Chita: A Memory of Last Island (1889)] 8）フランス語、スペイン語系クレオール文化の研究Cuisine Creole (1885), Creole Cookbook(1901), Gombo Zhebes: A Little Dictionary of Creole Proverbs (1885) など。

したがって、「文化の翻訳者(Cultural Translator)」「比較人類学者（Comparative Anthropologist)」と呼ばれることもある。中国語の勉強も試みたがこれは不首尾に終わっている。今日、当地でのハーンへの関心はいよいよ高まっている、と言えよう。

（ふくざわ　きよし　文学部教授）

熊本大学で利用できる電子ジャーナルについて

加　藤　信　哉

附属図書館では平成13年度の重点配分経費として新たに「電子的サービス拡充経費」の配分を受けることができました。「附属図書館運営委員会」は「電子的サービス専門委員会」を設置し、全学的な見地から「電子的サービス拡充経費」による電子ジャーナルやデータベースの整備を行い，現在、3,500タイトルを越える電子ジャーナルが熊本大学で利用できるようになりました。利用できる電子ジャーナルの概要とその利用環境について簡単にご紹介します。

1　利用できる電子ジャーナルの概要

熊本大学で利用できる主要な電子ジャーナルは表１のとおりです。これらの電子ジャーナルはJSTORを除き、欧米の科学・技術・医学（STM）分野の大規模出版社が刊行する学術雑誌です。その他にNature、Science、New England Journal of Medicine、Cellなどの熊本大学の学内で共同利用が高いと見込まれる学術雑誌が利用できます。また、冊子体に付随して無料で利用できるProceedings of the National Academy of Scienceなどの利用登録も行っています。

サービス名	収録タイトル数	対象分野	バックファイル	備　考
ScienceDirect（Elsevier Science）	約1,000	自然科学・工学・医学・社会科学など	冊子体購読誌：1995- 冊子体非購読誌：1998-	
Synergy (Blackwell)	約600	人文科学・社会科学・自然科学・工学・医学など	タイトルによって異なる 概ね5年程度	
LINK (Springer)	約480	自然科学・工学・医学など	タイトルによって異なる 概ね5年程度	
InterScience (Wiley)	約400	自然科学・工学・生命科学など	タイトルによって異なる 概ね5年程度	
IDEAL (Academic Press)	約170	自然科学・工学	過去2年分:2000-2001	2002年ScienceDirectに吸収
Oxford Online Journals (Oxford University Press)	約150	社会科学・自然科学・生命科学など	タイトルによって異なる 概ね2年から5年程度	国立情報学研究所によるトライアル
JSTOR:Arts & Science I Collection (JSTOR)	117	人文科学・社会科学など	創刊号から概ね3年から5年前までの分	バックファイルのみ

表１　利用できる主要な電子ジャーナル

2　電子ジャーナルメインページ

平成12年度に比べて一挙に増加した電子ジャーナルの円滑な利用を図るために附属図書館のホームページの中に「電子ジャーナルメインページ」を開設しました。（図１）「電子ジャーナルメインページ」には、「お知らせ」のほかに(1)熊本大学で利用できる電子ジャーナルのタイトル順のリスト (2)タイトルの中のキーワードからの電子ジャーナルの検索 (3)冊子体の配架部署別に対応する電子ジャーナルの検索 (4) 主要な出版社やサービス単位の電子ジャーナル検索などの機能が用意されています。また、登録した特定の電子ジャーナルについて新しい号が刊行された都度電子メールでお知らせする「個人用のページ」や冊子体のジャーナルに付随して利用できる電子ジャーナルをご連絡いただく「フィードバック」があります。電子ジャーナルの利用にあたっては先ず「電子ジャーナルメインページ」をご覧ください。

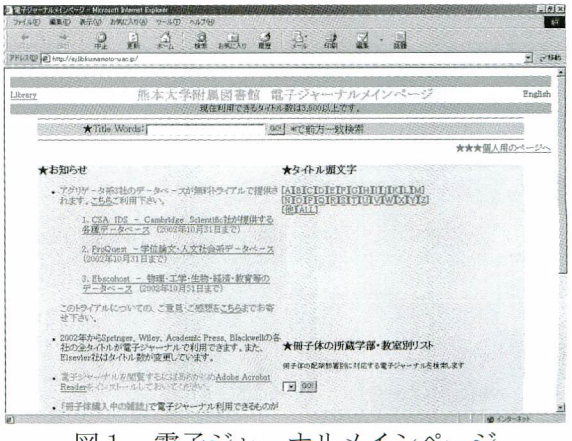


図１　電子ジャーナルメインページ
http://ej.lib.kumamoto-u.ac.jp/

今後は、熊本大学で利用できる電子ジャーナルの一層の充実を図るとともに電子ジャーナルの利用説明会などの開催を予定していますので電子ジャーナルについてのご意見をお寄せくださるようにお願いいたします。

（かとう　しんや　情報サービス課長）

米国の図書館サービス事情
－インターネットを使ったQ&Aサービス－

中　尾　康　朗

平成13年度国立大学図書館協議会海外派遣事業により、平成13年11月4日から約2週間、米国の図書館活動を視察する機会を得ましたので、簡単に米国の図書館事情をご紹介いたします。

今回の視察は図書館が行っている利用者に対する情報提供サービス（レファレンスサービス）の動向を調べることが主な目的でした。レファレンスサービスは、図書館の利用の仕方などから、文献調査などのコンサルティングまで、総合的に図書館の利用者へ行う情報サービスの総称のことで、簡単に言えば情報に関するよろず相談窓口といったところでしょうか。従来このレファレンスサービスは図書館のカウンターや、電話、FAX、文書の形で行われていました。その形態は今でも変わりませんが、コンピューターの発展により、ネットワークを使ってのレファレンスサービスが近年、米国を中心に急速に普及してきています。これは主に「デジタルレファレンス」などと呼ばれ、これからの図書館サービスの一つとなっていくと見られています。

今回はミシガン大学図書館、インターネットパブリックライブラリー、米国議会図書館、米国におけるデジタルレファレンス推進プロジェクトであるバーチャルレファレンスデスクの年次会議などを視察しました※1。ミシガン大学は蔵書数600万冊余を有する総合大学で、その図書館では電子的サービスに関する取組みが盛んに行われています。それからインターネットパブリックライブラリーはそのミシガン大学情報学部の学生による実務と教育を兼ねた仮想図書

館プロジェクトであります。また国立図書館の米国議会図書館においてもコラボレーティブデジタルレファレンスサービス(CDRS)と呼ばれる共同型レファレンスネットワーク構築が現在進行中です。バーチャルレファレンスデスクでは現在、250以上のデジタルレファレンスサービスが登録されており、最近は電子メールだけでなくチャットなどを使ったサービスも比較的多く見られるようになっています。全体を通じて、新しいサービス開発や技術の応用に対するアメリカ図書館界の積極性といったものがとても印象に残った訪問となりました。

熊本大学においてもオンラインレファレンスサービスを試行的に開始し、現在、電子メールを使ったレファレンスサービスを提供しています※2。インターネットは図書館スタッフにとっても利用者にとっても等しく提供されていますが、その膨大な情報量のため欲しい情報を選び出すのに一苦労するケースがあります。何から手をつけていいかわからない、探している情報がどこにあるか見つからないとき、図書館のレファレンスサービスという身近な情報サービスを一度活用してみてはいかがでしょうか。

（なかお　やすろう　電子サービス係）

※1 今回の海外派遣については平成14年6月27日国立大学図書館協議会総会にて最終発表を行い、併せて報告論文が「大学図書館研究」（学術文献普及会発行 ISSN：0386-0507）第65号に掲載予定です。詳しくはそちらをご参照ください。

※2 サービス窓口http://ref.lib.kumamoto-u.ac.jp/q&a/（附属図書館ホームページメニューからもリンクしています）

平成１４年度附属図書館事業計画

１．広報の充実
・図書館ホームページの充実（新規）
・図書館報「東光原」の充実（新規）
・速報誌の発行（新規）

２．利用者サービスの拡充
・平常期の夜間開館の延長（新規）
・新入生への図書館ガイダンス及び２年生以上の学生に対するガイダンスの充実
・総合科目「情報メディアと図書館の活用」支援
・授業やゼミと連携した情報リテラシー教育支援の強化
・電子ジャーナル、データベースのガイダンスの充実（新規）
・Ｗｅｂを利用した各種サービスの充実
・カード式コピーサービス（校費）の開始（新規）

３．電子図書館的機能の充実
・目録情報の遡及入力計画の促進
・電子的サービス（電子ジャーナル、データベース等）の充実
・学内研究成果（学位論文、紀要）のデータベース化と公開推進
・本学所蔵貴重書等コレクションの電子化と公開の本格的な実施
・利用者パソコンの持ち込み利用環境整備
・図書館システムのリプレースに伴う電子図書館システムの整備（新規）

４．資料の整備充実
・学生用図書及び参考図書の系統的な蔵書構築と基本図書の更新
・シラバス掲載参考図書の整備充実の継続
・視聴覚資料の充実
・利用頻度の少ない資料の整理・廃棄（新規）

５．施設・設備及び保存機能等の整備充実
（中央館）
・増改築計画の推進
・視聴覚機器の充実
・研究室からの返却図書（新設の集密書庫収蔵分）整備
・貴重資料の補修
・新書用書架の増設（新規）
（医学部分館）
・図書講義棟の新営
・入退館システムの更新（新規）
（薬学部分館）
・集密書架の増設
・２４時間入退館システムの更新
・監視カメラの設置
（３館共通）
・システムリプレースに伴う情報機器の整備
（新規）
・トイレ、照明、閲覧机・椅子、キャレルの整備、カーペット張り替え等、閲覧環境の改善
・利用者にわかりやすい館内サインの検討

６．地域に根ざした活動の展開
・「国立大学の現状と熊本大学の在り方検討WG」の報告書で提言された図書館活動の実施
・生涯学習教育研究センターとの連携強化
・一般市民等への利用サービスの充実
・地域の関連機関との連携強化
・展示会、講演会の実施

７．組織及び管理運営の改善、業務の効率化
・総合情報基盤センター、情報化推進室などの学内情報関連組織・施設との連携強化
・予算基盤の整備
・外部評価（モニター）の実施
・独立法人化への準備（新規）
・業務マニュアル整備
・業務・サービス統計の整備（新規）
・附属図書館概要2002-2003の作成（新規）

８．学術資料調査研究推進室の調査研究活動支援
・水俣病関係成果の公開、資料の受入
・古文書やハーンなど本学所蔵コレクションの電子化に関する調査研究と成果の公開

９．その他
・図書館協議会等（全国、九州地区、熊本県内）の諸活動への取り組み

図書館諸統計（平成１３年度）

Ⅰ．受入統計

(1)年間受入

		中央館			医学部分館			薬学部分館			計
		購入	寄贈等	小計	購入	寄贈等	小計	購入	寄贈等	小計	
図書	和漢書	6,784	924	7,708	157	0	157	110	141	251	8,116
	洋書	1,475	1,855	3,330	1,489	0	1,489	57	405	462	5,281
	計	8,259	2,779	11,038	1,646	0	1,646	167	546	713	13,397
雑誌	日本語	1,147	1,297	2,444	195	562	757	33	162	195	3,396
	外国語	1,333	31	1,364	550	125	675	79	20	99	2,138
	計	2,480	1,328	3,808	745	687	1,432	112	182	294	5,534
新聞	日本語	25	16	41	5	0	5	6	3	9	55
	外国語	3	5	8	1	0	1	0	0	0	9
	計	28	21	49	6	0	6	6	3	9	64

(2)蔵書

		中央館	医学部分館	薬学部分館	計
図書	和漢書	703,855	70,775	15,677	790,307
	洋書	340,470	102,786	20,622	463,878
	計	1,044,325	173,561	36,299	1,254,185
雑誌	日本語	11,661	2,045	358	14,064
	外国語	4,858	2,847	397	8,102
	計	16,519	4,892	755	22,166

Ⅱ．利用統計

(1)開館日数・入館者数・貸出冊数

	中央館	医学部分館	薬学部分館	計
開館日数	336	332	330	998
時間外開館日数(内数)	277	273	272	822
入館者数	445,856	143,040	85,653	674,549
時間外入館者数(内数)	142,527	41,382	37,223	221,132
貸出冊数	57,113	6,933	1,349	65,395

(2)相互利用（他大学等との現物貸借・文献複写）および学内文献複写

		中央館	医学部分館	薬学部分館	計
現物貸借	依頼冊数	820	18	2	840
	受付冊数	450	6	2	458
文献複写	依頼件数	3,903	3,887	1,412	9,202
	受付件数	1,894	6,106	1,367	9,367
学内での文献複写		276	―――	192	468

(3)貴重書等の利用(中央館)

	松井文庫	北岡文庫	その他
利用者数	21	262	16
利用件数	267	4,666	33

(4)視聴覚資料の利用(中央館)

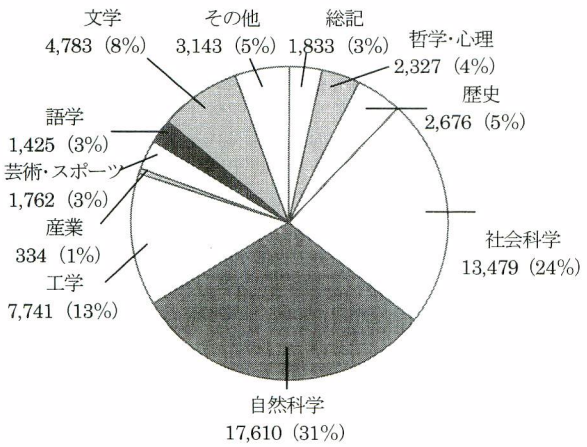
ビデオ・LDの利用件数	2,176
CD－ROM*の利用件数	28

*　スタンドアロンのみ

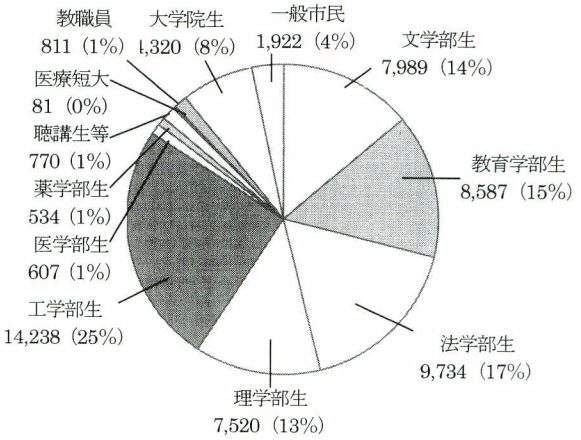
(5)OPAC（蔵書検索システム）の利用

利用件数	188,317

(6) 分野別貸出状況（中央館）

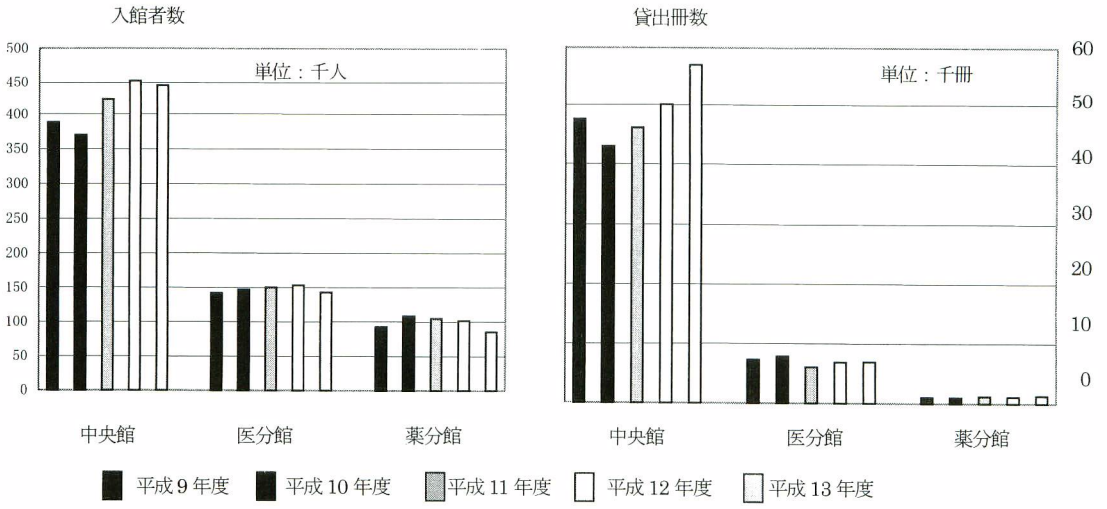


(7) 学部別貸出冊数（中央館）

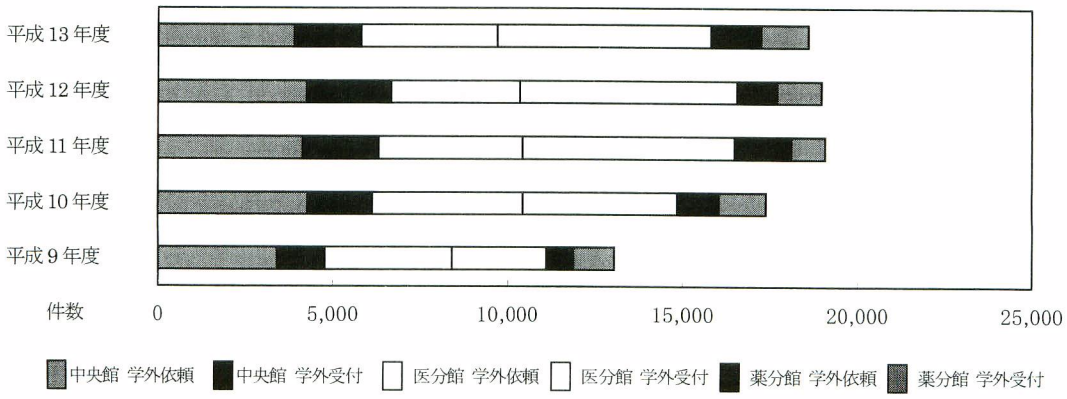


Ⅲ. 年次推移（平成９年度～平成13年度）

(1) 入館者数・貸出冊数の推移



(2) 他大学等との相互利用（文献複写のみ）の件数の推移



本学教官寄贈図書（平成14年4月～6月）

★ASPECT熊大コーナーに配架しています★

◆春田直紀（教育学部）

地名から探るムラの営みと歴史：熊本県阿蘇郡阿蘇町大字西小園地区の現地調査 / 熊本大学教育学部社会科日本史研究室編集. -- 熊本：熊本大学教育学部日本史研究室，2001.12
中央館・教官著書コーナー：219.4/Ku,34/(3)

◆大野龍浩（文学部）

ギャスケルの文学：ヴイクトリア朝社会を多面的に照射する / 松岡光治編. -- 東京：英宝社，2001.10
中央館・教官著書コーナー：930.268/G,99

ギャスケル文学にみる愛の諸相 / 山脇百合子監修. -- 東京：北星堂書店，2002.3
中央館・教官著書コーナー：930.28/G,99

◆中川義朗（法学部）

ドイツ公権理論の展開と課題：個人の公法的地位論とその権利保護を中心として / 中川義朗著. -- 京都：法律文化社，1993.3
中央館・教官著書コーナー：323.34/N,32

現代の人権と法を考える / 中川義朗編. -- 京都：法律文化社，1998.5
中央館・教官著書コーナー：323.143/G,34

基本行政法学 第2版/ 手島孝，中川義朗編. -- 京都：法律文化社，2001.4
中央館・教官著書コーナー：323.9/Ki,17

基本行政法学 / 手島孝，安藤高行，中川義朗編. -- 京都：法律文化社，1995.3
中央館・教官著書コーナー：323.9/Ki,17

◆岩岡中正（法学部）

転換期の俳句と思想 / 岩岡中正著. -- 東京：朝日新聞社，2002.4
中央館・教官著書コーナー：911.36/I,95

時代転換期の法と政策 / 中村直美，岩岡中正編. -- 東京：成文堂，2002.3
中央館・教官著書コーナー：321.04/J,48

（寄贈日時順）

最近の図書館の動き（平成14年4月～6月）

● 朝日新聞記事データベースDNAが学内から利用できるようになりました

朝日新聞記事データベースDNAは、1984年から現在までの朝日新聞全文を検索できるデータベースです。図書館ではこれまで中央館閲覧室内の専用端末で朝日新聞記事データベースDNAを提供してきましたが、この度学内ネットワークで24時間、提供することになりました。図書館ホームページ上より利用できます。

● 視聴覚機器を増やしました（中央館）

中央館ではAVコーナーの視聴覚機器を増やしました。ビデオやDVDなどの視聴覚資料がより利用しやすくなっています。

人事異動（訂正）

東光原第32号（2002.4）「人事異動」（6頁）に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

■異動
（平成14年4月1日付）

（誤）	理学部総務係事務補佐員	吉村　貴子	（情報ｻｰﾋﾞｽ課相互利用ｻｰﾋﾞｽ係事務補佐員）
↓			
（正）	理学部総務係事務補佐員	吉村　貴子	（情報ｻｰﾋﾞｽ課資料ｻｰﾋﾞｽ係事務補佐員）
	情報ｻｰﾋﾞｽ課資料ｻｰﾋﾞｽ係事務補佐員	梅原　慶子	（情報ｻｰﾋﾞｽ課相互利用ｻｰﾋﾞｽ係事務補佐員）

委員会報告（平成14年4月～6月）

附属図書館運営委員会

■平成14年度１回（５月28日書面会議）

〔協議事項〕

(1)大学院社会文化科学研究科からの附属図書館運営委員会委員の選出及び附属図書館委員会規則並びに附属図書館長選考規則の一部改正について

日誌（平成14年4月～6月）

4.8	入退館システム運用開始（中央館）
4.12-26	春のガイダンス（中央館）
4.18	第32回九州地区国立大学図書館協議会（大分大学）
4.19	第53回九州地区大学図書館協議会総会（大分大学）
4.25	第8回熊本県大学図書館協議会総会（九州ルーテル学院大学）
5.20	レファレンス事例ＤＢ打合せ（九州大学）
5.21	平成14年度国立大学附属図書館事務部課長会議（学術総合センター）
6.11	平成14年度国立学校等幹部職員研修（国立オリンピック記念青少年総合センター）
6.14	熊本県図書館連絡協議会理事会（熊本県立図書館）
6.26-27	第49回国立大学図書館協議会総会（鳥取大学）

熊本大学ハーン展示会・講演会が開催されます（予告）

展示期間
　平成１４年９月１９日（木）～２７日（金）
　（ハーンの命日９月２６日をはさんで）

展示時間
　９：００～１７：００（土・日・祭日10：30～16：00）

会　　場
　附属図書館自由閲覧室（１BF）入場無料

展示資料
・ハーンの書いた新聞記事のオリジナル（約120年前）
・旧制第五高等学校の初期の校誌『龍南会雑誌』
・旧制五高時代のハーン直筆のテスト問題
・図書館所蔵のハーン作品の初版本
・ハーン時代のシンシナティとニューオリンズの版画
・その他熊本大学所蔵のハーン資料数十点

★オープニングは、９月１９日（木）
自由閲覧室展示会場にて（13時より）

（１）　講演会《　９月１９日（木）　》
講　演　『小泉清の話』～八雲の三男～
講　師　金原　理先生　文学部教授
時　間　１３：００～１４：００
会　場　附属図書館自由閲覧室（１BF）入場無料

（２）　講演会《　９月２７日（金）　》
講　演　『ハーンの最後の日々』
講　師　アラン・ローゼン先生　教育学部外国人教師
時　間　１０：３０～１１：３０
会　場　附属図書館会議室（２F）入場無料

主催　熊本大学附属図書館／熊本大学学術資料調査研究推進室
共催　熊本大学小泉八雲研究会

図書館ガイダンスを実施

中央館では新入生対象とした、“春の図書館ガイダンス”を4月12日（金）～4月26日（金）に実施しました。このガイダンスでは館内ツアーをはじめ、図書館サービスの紹介、パソコン操作、資料の探し方など図書館の基本的な利用法についての説明・実習を行いました。期間中の全41回の開催に対し476名が受講しました。

秋には、2年生以上の学部生を対象にレポートや卒業論文作成の際必要となる資料の検索・入手方法を「新聞記事を探す」「雑誌論文を探す」「所蔵を調べる」の3つのコースを用意して開催する予定です。

貴重資料展の開催（予告）

「平成14年度熊本大学附属図書館貴重資料展及び公開講演会」を熊粋祭の日程に合わせて下記の要領で開催いたします。今年で19回目の貴重資料展では、幕末期の絵図類を中心に「ペリー来航」「小倉戦争」等、いくつかの項目を設けて、永青文庫の中に展開する「明治維新」の世界を探ってみることにする。

記

●テーマ：　永青文庫の中の「明治維新」
期　　間　平成14年11月2日（土）～4日（月）
時　　間　10：00～16：00
展示場所　附属図書館（1BF）
展示古文書
「琉球江渡来之仏朗人応答書」「亜墨利加狂歌集」
「亜米利加施設対話書等」「相州海岸図」
「猿島御台場之図」「小倉出張図」他数点

●公開講演会
演　題　永青文庫の中の「明治維新」
講　師　文学部助教授　三澤　純氏
日　時　平成14年11月2日（土）
13：30～15:00

編集後記　：　ここ、大江の薬学部分館の窓から外を眺めると、ざくろがたくさん実をつけています。夾竹桃、夏つばきの花も咲いています。季節ごとに何かの花が咲いていて、絶えることがありません。一体全体幾種類の花、木が植えられているのでしょう？このような環境で勉学できることはとても恵まれていると思います。と言っても学生に自覚があるかどうかわかりませんが・・・この緑多い薬学部に「薬学展」の折にでもいらしてみませんか？薬膳料理や薬草園ツアーもありますよ。

さて、「東光原」第33号が発刊となりました。吉村先生の宮本武蔵論が興を誘い、来年のNHK大河ドラマ「武蔵」が楽しみです。　（き）

熊本大学附属図書館報「東光原」（とうこうげん）*
第33号(Vol.11 No.3)
平成14年(2002年)7月 第33号（2002.7)発行

発行所　熊本大学附属図書館
〒860－8555 熊本市黒髪2-40-1
TEL:096（342）2273 FAX 096（342）2210
http：//www. lib. kumamoto-u.ac.jp/tokogen/
編　集　加藤信哉，　栂尾勝征，　安陪光恭，
北野典子，　中尾康朗，　森下和博

※ 現在の中央館の敷地一帯が、旧制第五高等学校時代東光原と称する運動場であったことに由来する。